

関係機関長 殿

沖縄県病害虫防除技術センター所長

( 公 印 省 略 )

病害虫発生予察注意報について

平成 29 年度病害虫発生予察注意報第 1 号を発表したので送付します。

---

平成 29 年度病害虫発生予察注意報第 1 号

- 1 作物名 さとうきび
- 2 害虫名 カンシャワタアブラムシ
- 3 発生地域 八重山群島
- 4 注意報発令の根拠
  - (1) 石垣島における 4 月上旬の巡回調査の結果、新植夏植ほ場における寄生株率は 18.0% (2 月上旬 2.5%) で、発生ほ場率は 82.4% (2 月上旬 58.3%) であった。
- 5 発生生態および被害
  - (1) 成虫には無翅虫(図3)と有翅虫(図4)がいる。
  - (2) 無翅虫が綿状の白いワックスを背面から分泌し、さとうきび葉裏に密なコロニーを形成する(図1、2)。
  - (3) 本種は高温に弱く、木陰のススキの葉裏等で夏を越す。
  - (4) 秋に多くの有翅虫が発生し、収穫ほ場から新植の夏植ほ場に定着し、翌春の発生源となる。
- 6 防除上注意すべき事項
  - (1) 大発生すると、吸汁害およびすす病によりさとうきびの生育が遅延するため、早期防除が重要である(図6)。
  - (2) 薬剤が葉裏にかかるよう丁寧に散布する。
  - (3) 収穫予定のさとうきびほ場や近隣作物へ薬剤がドリフト(飛散)しないよう注意すること。
  - (4) 本種の捕食性天敵であるマエウスジロマダラメイガの密度が高い場合は、捕食による密度低下が期待できる(図7)。
  - (5) 多発生時は有翅虫が絶えず移動分散するため、一斉防除を行うことが望ましい。



図1 コロニー



図2 寄生された葉



図3 成虫(無翅虫)



図4 成虫(有翅虫)と幼虫



図5 幼虫



図6 葉に発生したすす病



図7 マエウスジロマダラメイガの幼虫